

490.5  
Th-1  
3

12 33-1

No. 2082

號三第

i 33-1

定稅遞送免許

每月六回發兌

明治十年五月廿二日刊行



東京不忍池畔

櫻南社

藥物學部

富士川文庫  
895



F 3  
1-103

緒言

我國近世醫學一變シ漢チ去テ洋ニ就ク是ニ於テカ  
西洋諸家ノ新著陸續舶輸スルモノ枚舉スルニ遑ア  
ラス且遠ク海外ノ教師ヲ延キ其學術ヲ親炙研究ス  
豈ニ開明ノ鴻澤ナラスヤ然ト雖モ其地僻遠或ハ都  
下ニアレドモ事業多端ノモノ又貧困ニシテ學費ニ  
乏キ者皆遺感ナキヲ能ハズ因テ今西洋現在諸大家  
ノ說ヲ纂輯譯述シ最モ簡明切當ノモノナ采り之ニ  
加舉テ遺スフナシ然ラバ則チ僻邑大都學ニ裨益アルモノ  
ヨリ始メ訓點ヲ加ヘ發兌シテ世ニ問フ諸學科ノ志ス者一  
キ追次印刷スベシ此書啻ニ醫家ニ便ナルノミニ非ズ  
茲藥舗ナ業トスルモノモ一讀シテ有益尠ナカラズ  
若シ校正錯誤アラバ讀者請フコレヲ訂正セントヲ  
櫻南社長識

醫範新說

第三號

藥物學部

以下蓑若製劑ヲ示ス

〔一〕 蓑若根葉

右他ノ麻醉藥ニ伍ミテ鎮痛或ハ鎮痉ノ蒸湯

剤トシテ用ルコトアレドモ患部ノ皮膚疎豁

或ハ剝脱ノ爲ナキ者ハ麻醉ノ効力を吸収セ

ス故ニ蒸湯剤ニ配スル者ハ唯藥氣ノ温熱ニ

乘シ通徹シテ僅ニ効チナスニ過ズ

乗シ通徹

シテ僅

ニ効

チナス

ニ過ズ

シテ僅

ニ効

チナス

ニ過ズ

シテ僅

ニ効

チナス

ニ過ズ

シテ僅

ニ効

チナス

ニ過ズ

用量根ハ一回ニ四分氏ノ一乃至三氏ヲ量ト  
ス一日ニ三回ナ與フ

ス一日ニ三回ナ與フ

葉ハ半氏乃至五氏ナ一度ノ量トス一日ニ三

回ナ與フ

〔二〕 蔓若越幾斯方

蔓若二十分

右新鮮ノ花莖葉花蹊ノ初共ニ量リ冰一分ヲ  
澆キ石臼ニテ搗爛シ絞リ汁ナ取り又冰三分  
チ其滓渣ニ灌キ窄リ又汁ナ取り前後ノ二液

チ合セテ文火ニ上セ八十度攝氏ノ熱ニ至ル  
チ待テコレチ濾過シ再ビ乗セ重湯鍋中ニ熬  
テ全量ノ十二分ノ一トナルニ至ルチ待テ酒  
精二分チ加ヘテ放置スルコ二十四時ノ間ニ  
シテ後チ頻ニ攪拌シ布ヲ以テ漉放シ更ニ稀  
酒精一分チソノ滓渣ニ加ヘテ漉出シ液ナラシメ  
リ又コレチ合テ隔火ニ煎稠シ粘帖ナラシメ  
テ膏ノ如クス色暗褐ヨク水ニ浴開ス  
用量ハ一度ノ量六分氏ノ一乃至一氏又一氏

半チ極量トス上チ記ス一日ニ三回チ與フ

(三)

蓑岩丁幾方

蓑岩

五分

酒精

六分

右新鮮ノ花莖葉共ニ搗爛シ酒精ニ浸シ曝大

法常ノ如シ

あるこゝる

用量ハ一度ノ量三滴乃至十滴十六滴ヲ極量

トス上ヲ記ス一日ニ三回ヲ與フ

あるこゝる

硫酸

アトロヒ子

右根チ以テ製スル苦味ノ鹽ナリ水及び酒精

あるこゝる

(五)

ニ溶化ス

單純アトロヒ子

あるこゝる

右硫酸ト抱合セサル者ニシテ藥舗ニ通常闇

あるこゝる

ク所ノ品ナリ

あるこゝる

用量ハ一回ニ二百分瓜ノ一乃至百分瓜ノ一

あるこゝる

又六十分瓜ノ一一日三回與フ

あるこゝる

アトロヒ子チ丸散ミキスツラ混合劑

其他種

ヤノ剤トナス其効用ハ根葉及ヒエキスニ同

あるこゝる

シト雖モ性力ニ至テハ猛烈ナリ故ニ前量ヲ

あるこゝる

シト雖モ性力ニ至テハ猛烈ナリ故ニ前量ヲ

あるこゝる

(六)

點眼水方

主用ス

アトロヒ子一氏水半写或ハ二子

右溶化ス一氏ハ壹厘六毛強ナリ半写ハ四

角膜及ヒ虹彩炎ニ用ユコレチ點テ全身ニ感

動スルコトアリ其徵候ハ眩暈チ發ス茲ニ於

テ止ルコトナ度トス然リト雖心症劇烈ナル

モノハ止ムルコト早ニ過ルコト勿レ此劑ヲ

製

ルニハ精淳ノ品ナ選ヘシ若シ過剩ノ酸

附錄

混ルトキハ結膜チ刺戟スル憂アリ

(皇國名)

チニシルクサオホシルグサ

チメキグサ

ホメヤクサ

ナツ桔梗

ハシリトコロ

(支那名)狼藉

虎蘿

蓑岩ハ深山幽谷ノ宿根ヨリ生シ早春嫩芽チ生

四  
さく  
あらん  
はらすめ

○ 菲沃斯ハ 萍若ニ類似ノ品ニシテ知覺神經ノ末

効分

菲沃失亞密涅

菲沃斯  
葉

ヒヨシヤムス、ニケル

草解ノ如ク地ニ入コト淺クシテ横行ス此品ノ  
麻醉質ナルコトナリテ知ラス根葉ニ誤テ食スルト  
キハ狂亂奔走ス故ニハシリトコロノ名アリ世  
人烟草ナ誤テ萍若トナスハ非ナリ

ス色紫黒長大ルニ及テ色淡綠莖圓ク高サ一二  
尺葉互ニ生ス形ニ商陸葉ニ似テ小クマタ一種  
長葉ノ者アリ梢葉ノ間ニ梗ヲ出シ花下垂テ開  
ク其形本ハ筒ニシテ先ハ五ツニ尖リ一種圓花  
アリ長サ一寸余色ハ黃褐ニシテ紫チ帶ブ一種  
色花ノ蒂ノ如シテ綠チ帶ルモノアリ共ニ蒂ハ桔梗  
コシテ棟子ニ似テ大ナリ色ハ淡綠中ニ褐色ノ  
細子多シ初夏ニ至テ實熟シ苗枯ル根ノ形ハ山

梢 チ 麻痺 セ シ ム ル 効力 ハ 蔓若ニ 行徳 タリト 雖モ  
 心臓部 ノ 神經ヲ 麻痺シ 搏動チ 減却シ 體温チ 降下  
 ルコトハ 蔓若ト異リ 蔓若ハ 初心動チ 沈遲ナラシ  
 メテ 後ニ 亢進スヒヨスハ 亢進セス 中量チ 與テ 睡  
 故ニ 催睡ノ効力ハ 阿片ニ 及ハサルヲ 遠シ  
 熟ストイヘトモ 夢魂着セス回後 心胸舒泰ナラス  
 トキハ 暎眩ノ侯更ニナシ  
 トキハ 暎眩ノ侯更ニナシ  
**(健體作用)** ヨマヒナキ人ニ「小量以下」此量チ 與フル  
**[中量至三氏乃]** 初起咽喉乾燥チ 發シ 侵次頭痛掉量シ  
**[大量又六氏乃至五氏]** 此量チ 與フルトキハ前條ノ諸  
 症ニリ一層劇ク體温減過シテ厥冷シ脉度減テ四  
 五十搏トナリマ、「チヤノーセ」チ發ル者アリ聲音  
 嘶嗄甚ク或ハ失音シテ亟サルニ至ル知覺神經甚  
 フ麻痺シ其形久坐倚著テ機能テ壓住テ舉コト能  
 サル如シ尋テ眠チ催シ睡裏安カラハ怪異ノ夢多

聲音嘶嗄渾身倦怠肌肉瘦削行步慄々體温尤  
 退下ス其退下ハ寒温器ヲ待ス手掌ナ以テストモ  
 知コトナ得ベシ  
**[大量又六氏乃至五氏]** 此量チ 與フルトキハ前條ノ諸  
 五十搏トナリマ、「チヤノーセ」チ發ル者アリ聲音  
 嘶嗄甚ク或ハ失音シテ亟サルニ至ル知覺神經甚  
 フ麻痺シ其形久坐倚著テ機能テ壓住テ舉コト能  
 サル如シ尋テ眠チ催シ睡裏安カラハ怪異ノ夢多

シ 或ハ「ハルチナチチ」錚チ起シ  
テス身體困倦ス

〔中毒量、二弓乃至〕藥ノドクニア  
タルチ云フルトキ

ハ心臟ノ機能耗散シ搏度大ニ減シ  
痙攣掣縦神志

〔醫事効用〕ニセマヒユアル人  
ルガ如クレ良若トスコシク異リアレトモ

トス又一高手ノ説ニ非沃斯葉ハ括約筋ノ麻痺チ  
起スコト良若ノ如ク甚カラス且精神チ鼓動スル

トスコト良若ノ如ク甚カラス且精神チ鼓動スル

力也亦弱シ然レトモ催睡ノ効ハ反テ強シ又一説  
〔一〕知覺疾敏ノ症ニ於テハ良若ト辨明スベシ  
ク散大スル等ニ以テ區分ナラサルト瞳孔ノ著  
ニ非沃斯葉ト阿片ト相異ナル所以ハ大便結秘ヲ  
ナサアルト催睡ノ効驗確實ナラサルト瞳孔ノ著  
ク梢大スル等ニ以テ區分ナラサルト瞳孔ノ著  
ニ未梢チ麻痺セシムルノ効チ主的トシ與フス知覺ノ  
鑽若ノ確タル効力ニハ及ス咳嗽チ豁除スル効ニ  
至テハ良若ニ同シ然トモ熱候アル者ニハ用ユル  
コトヲ禁ス

〔二〕小兒白日喉ノ如キ連リニ嗽シテ己ス痰ヲ略スル

コト少キ者又喉頭ニ疾患アリ爲ニ發捨テ咳嗽ス

ル者ナル主トル

〔三〕峻下劑チ奥ルトキ腸管ノ痛ヲ防ク爲ニ與フ殊ニ

「コロシンド」チ奥ルトキニ伍用テ尤モ宜シ又諸痛

チ止ムルチ主ル大便結硬チナサヤルチ以テ投與

ニ辨ナリ  
以下菲沃斯製剤ヲ示ス

〔一〕菲沃斯葉

右花ノ将ニ開カントスル時ニ方リテ葉ヲ摘

採シテ陰乾シ貯フ

〔二〕菲沃斯子

右外用ニ供スルノミ他ニ使用スルヲナシ

〔三〕菲沃斯越幾斯方

右菲沃失亞母斯ノ花候ノ初ニ方リ其葉及ヒ

嫩莖ヲ取テ製ス其法ハ蓑若越幾斯ニ同色茶

褐ニシテ微綠ヲ帶ヒ水ニ溶和スレハ渾濁ス

用 量 ハ 一 回 六 分 扱 ノ 一 乃 至 三 扱 一 日 量 ト ス

丸 散 ト ナ シ テ 與 フ

一 說 ニ 増 量 シ テ 一 日 ニ 一 叉 一 叉 ハ 三 分 三 厘

チ 二 回 ニ 與 フ ル 法 ア リ 按 ス ル ニ 常 套 ニ 非 サ

ル ナ ラ ノ

菲 沃 斯 軟 膏 方

菲 沃 斯 エ キ ス 一 分

單 蠼 膏 九 分

〔四〕

〔五〕

右 二 味 捺 化 ス

菲 沃 斯 硬 膏 方

〔六〕 菲 沃 斯 末 二 分

帝 列 並 油

阿 列 罥 油 各 一 分

黃 蠼 四 分

右 三 味 煉 烧 シ 火 チ 離 シ ャ 、 冷 チ 待 テ 前 末 ノ

下 シ 搅 過 ス

右 葉 ニ 酒 精 チ 澆 キ 其 黑 チ 封 勒 シ 數 時 間 放 チ

菲 沃 斯 油 浸 方

菲 沃 斯 酒 精 一 分

阿 列 罥 油 二 十 分

右 葉 ニ 酒 精 チ 澆 キ 其 黑 チ 封 勒 シ 數 時 間 放 チ

置 キ 更 ニ 阿 列 罥 油 チ 加 テ 浸 漬 シ 重 湯 ニ 乘 セ

煎 シ 時 々 摶 淚 シ 酒 精 ノ 性 臭 飛 散 シ 盡 チ 度 ト

ナシ火チ住メ數日ノ後コレヲ捺リ津チ去リ

ソノ液チ貯フ

アツカセス

〔七〕 菲沃失亞密涅

右、菲沃斯ノ元質ニシテ製法イマタ定確セス  
故ニ用ルコト能ス將來精製ノ法チ究ルノ日  
アラハ必ズ瞳孔ヲ開散セシムル其効驗ハ「ア  
トロヒ子ニ優ルベシ

接ニヒヨスハ皇國支那種名イマタ詳ナラ  
ズ

社長芝大助  
纂輯長松本操  
印刷人三郎俊彌  
錦袋圓 勸學寮内

發賣所 櫻南社

東京第四大區六小區池之端仲町廿三番地

毎月六回發兌一冊定價金五錢○一ヶ月分前金二十七錢○三ヶ月分前金  
七十七錢○東京府内配達ハ郵便稅不申受府外ハ郵便稅申受候

賣

東京銀座二丁目壹番地

精錡水本舗

岸田吟香

東京通り油町七番地

金銀縫針問屋

池田藤兵衛

捌

中仙道鴻ノ巣驛

書肆

長島爲一郎

所

東京上野元黒門町廿六番地賣藥調製所

濟世堂

○今般第一號發兌仕候處文體ニ拘ラス少年輩ニモ  
讀易キ様フリガナ仕ベク旨諸君ヨリ御懇切ニ仰  
セ下サレ社長始メ一同難有厚ク御禮申上候今第  
二號ヨリ仰セ下サレ候通ニ改正仕候間尙御註文  
ノホド伏テ奉願候頓首